



平成30年5月15日

各 位

会 社 名 東 和 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 吉 田 逸 郎
(コード番号 4553 東証第1部)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 田 中 政 男
(TEL 06-6900-9102)

(訂正) 「中期経営計画 2018-2020 「PROACTIVE」 の策定に関するお知らせ」の一部訂正について

平成30年5月14日に発表いたしました「中期経営計画 2018-2020 「PROACTIVE」 の策定に関するお知らせ」の添付資料の記載事項に一部誤りがございましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、訂正箇所を下線を付しております。

記

- ・訂正箇所：添付資料4ページ「東和薬品グループの概要」

【訂正前】

大地化成株式会社

所在地 兵庫県神埼郡福崎町

【訂正後】

大地化成株式会社

所在地 兵庫県神崎郡福崎町

- ・訂正箇所：添付資料5ページ「東和薬品の歩み」

【訂正前】

「21世紀の医療品の在り方に関する懇談会」

【訂正後】

「21世紀の医薬品の在り方に関する懇談会」

以 上



平成30年5月14日

各 位

会 社 名 東 和 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 吉 田 逸 郎
(コード番号 4553 東証第1部)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 田 中 政 男
(TEL 06-6900-9102)

中期経営計画 2018-2020「PROACTIVE」の策定に関するお知らせ

当社は、このたび 2018 年度～2020 年度（2019/3～2021/3）の中期経営計画を策定致しましたので、お知らせいたします。

【中期経営計画の概要】

<当社の基本方針>

1. 国内ジェネリック事業の確実な成長
2. 持続的な成長に向けて、さらなる製品品質の進化
3. 新規市場への進出・新規事業の創出

<主要項目の計数目標>

売 上 高 : 1000 億円/年の達成
研 究 開 発 費 : 累計 260 億円以上
営 業 利 益 : 累計 300 億円以上
設 備 投 資 : 累計 200 億円以上
自 己 資 本 比 率 : 50%以上

※ 本資料に記載されている当社グループの経営目標及び業績予想等の将来に関する内容は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。従いまして、実際の業績等が予測値と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

以 上



中期経営計画

2018-2020

PROACTIVE

2018.5.14

東和薬品は、ジェネリックに+ α の価値を。

© Copyright 2018 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.



くすりのあしたを考える。

東和薬品

目次

1

東和薬品が目指す姿

2

中期経営計画（2018-2020）

東和薬品が目指す姿

東和薬品グループの企業理念

私達は 人々の健康に貢献します

私達は こころの笑顔大切にします

東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に貢献する。

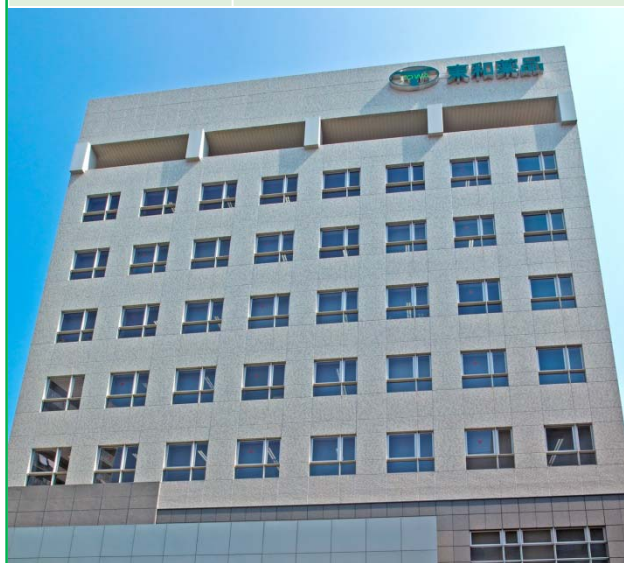
そして私達の企業活動を通して、患者さん、医療関係者の皆様、地域社会をはじめとする

すべての方々にこころから喜ばれ、求められる企業を目指していきます。

東和薬品グループの概要

東和薬品株式会社

代表取締役社長	吉田 逸郎
所在地	大阪府門真市
主要事業	医療用医薬品の製造販売
資本金	4,717百万円
従業員数	2,995名
自社製品数	341成分755品目
営業所数	72拠点
代理店数	36社66拠点



ジェイドルフ製薬株式会社

代表取締役社長	西川 義明
所在地	滋賀県甲賀市
主要事業	医療用医薬品の製造販売
資本金	40百万円
東和の出資比率	100%



大地化成株式会社

代表取締役社長	郷原 一丸
所在地	兵庫県神崎郡福崎町
主要事業	医療用原薬・中間体の研究開発及び製造
資本金	50百万円
東和の出資比率	100%



上記以外の子会社

グリーンカプス 製薬株式会社 (非連結子会社)

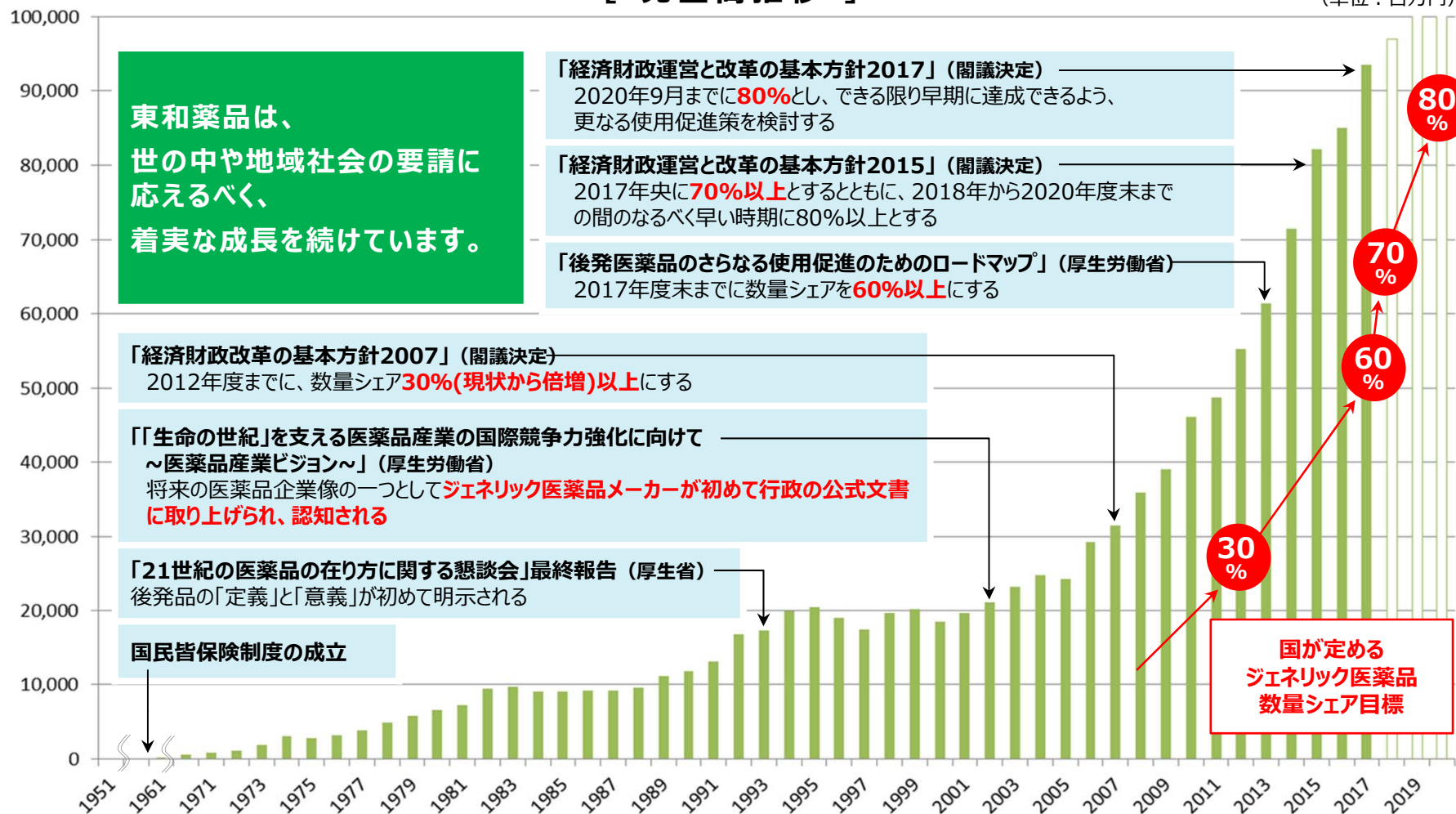
代表取締役社長	白川 敏雄
所在地	静岡県富士市
主要事業	医療用ソフトカプセル製造
資本金	90百万円
東和の出資比率	60%

東和薬品の歩み

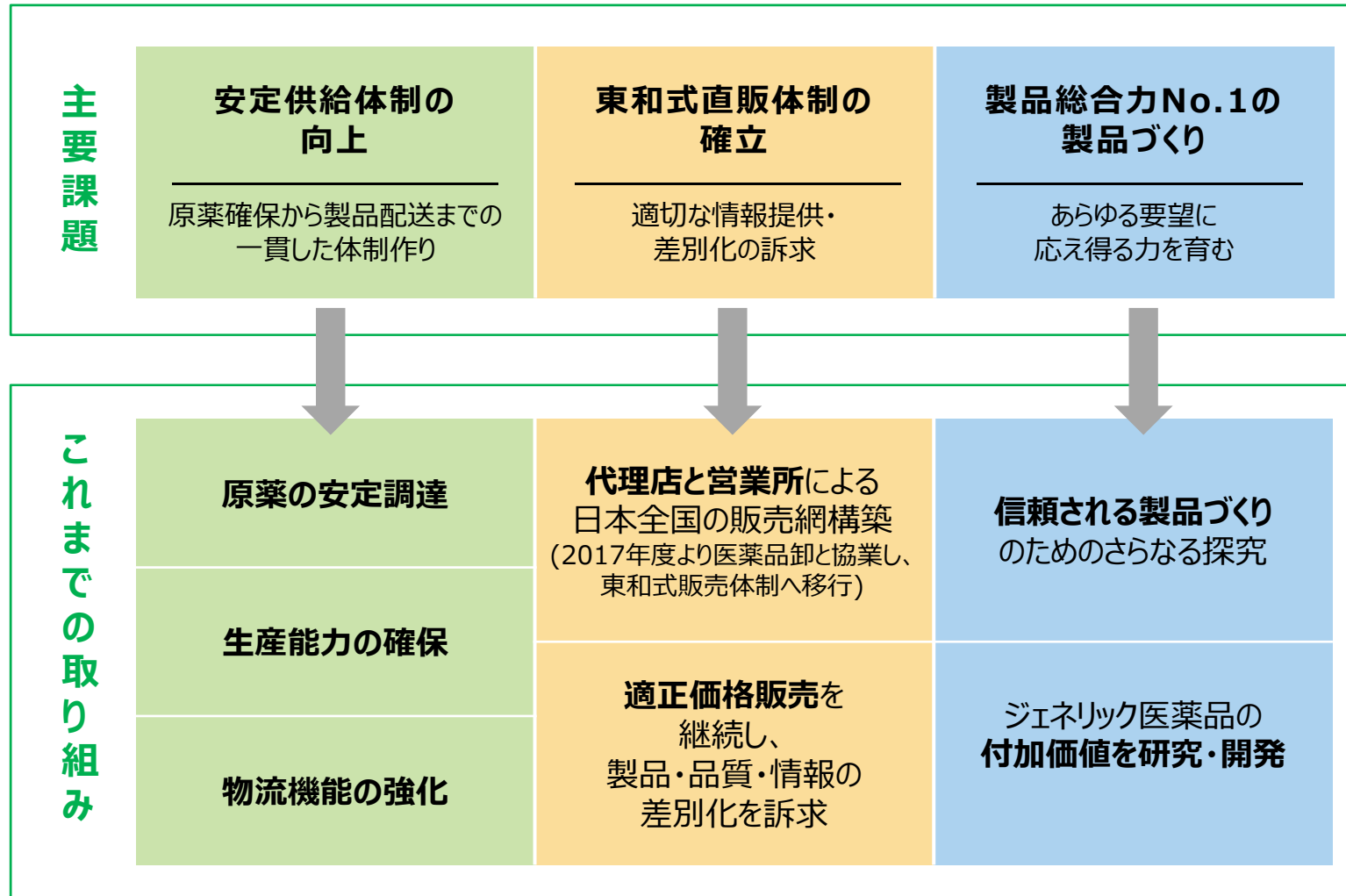
東和薬品株式会社は、1951年に「東と和をなす」という意味を込めて、大阪市東区で創業しました。

〔売上高推移〕

(単位：百万円)

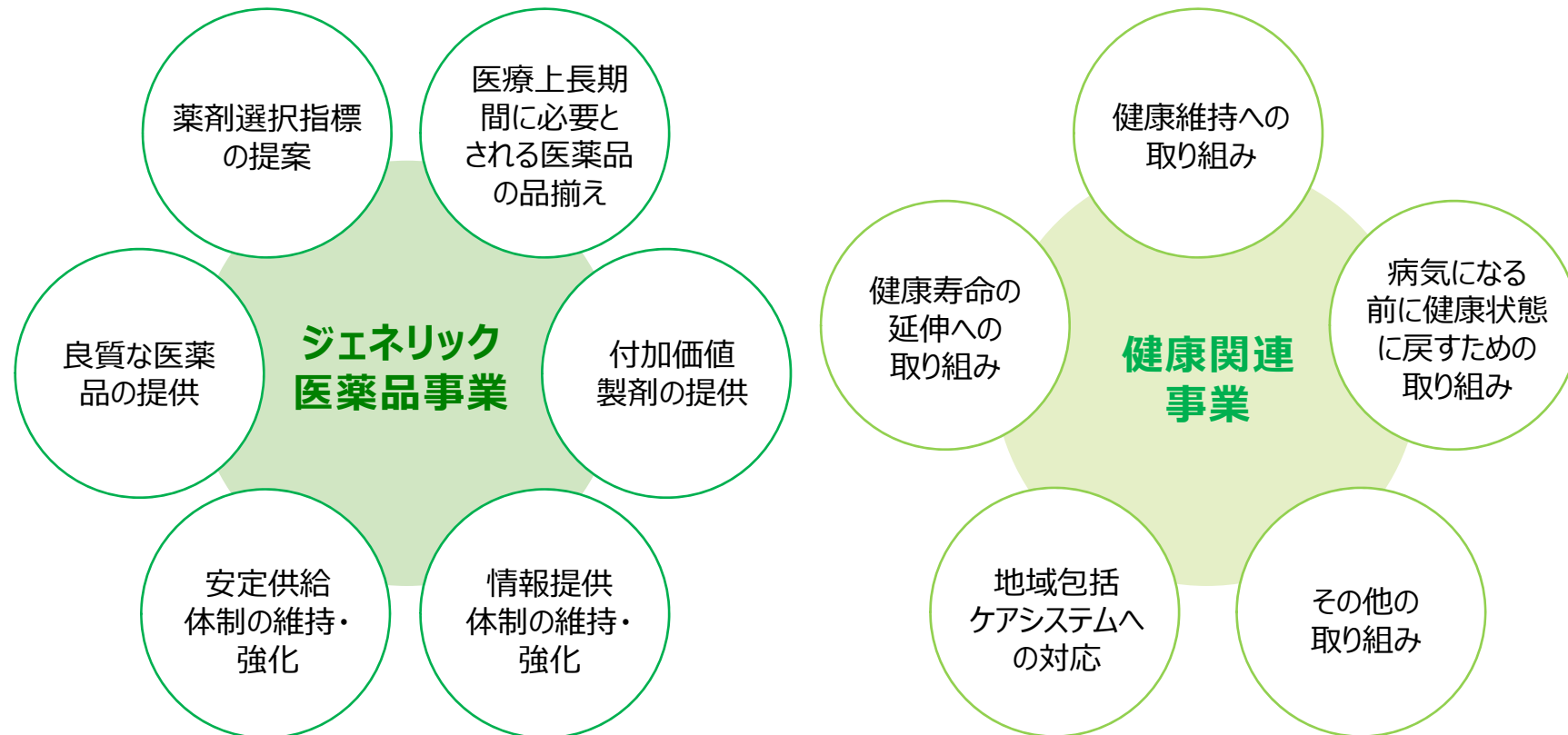


東和薬品の歩み これまでの取り組み



東和薬品が目指す姿

世の中や地域社会に必要とされる企業



東和薬品は、ジェネリック医薬品事業でこれまで以上の信頼を得る企業となるべく尽力していきます。また、これまでに培った知見や技術の活用だけでなく、新たな技術の獲得やまったく新しい知見や技術との融合を図り、新しい医療体制に対応した健康関連事業の創出にも注力していきます。

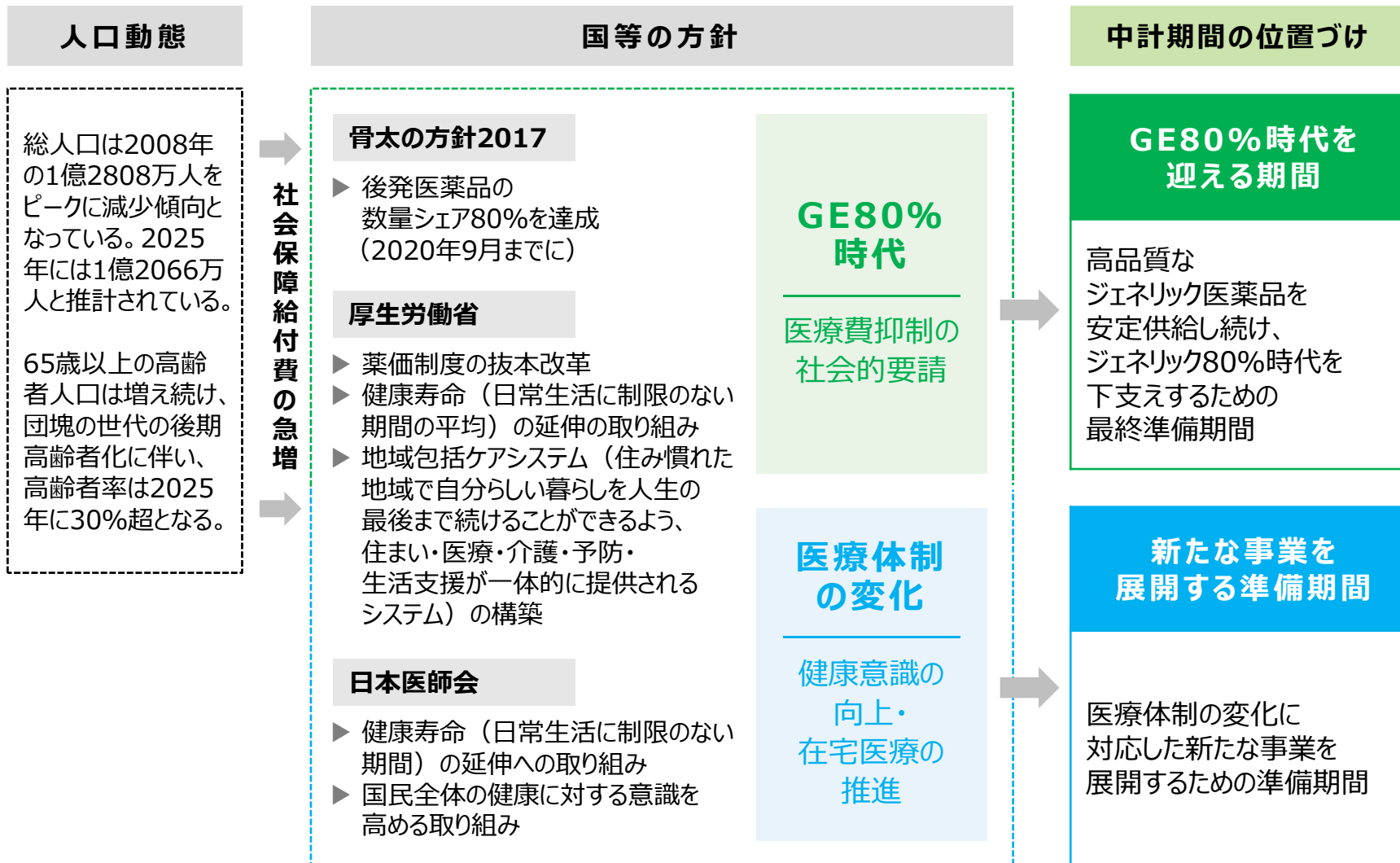
中期経営計画（2018-2020）



PROACTIVE

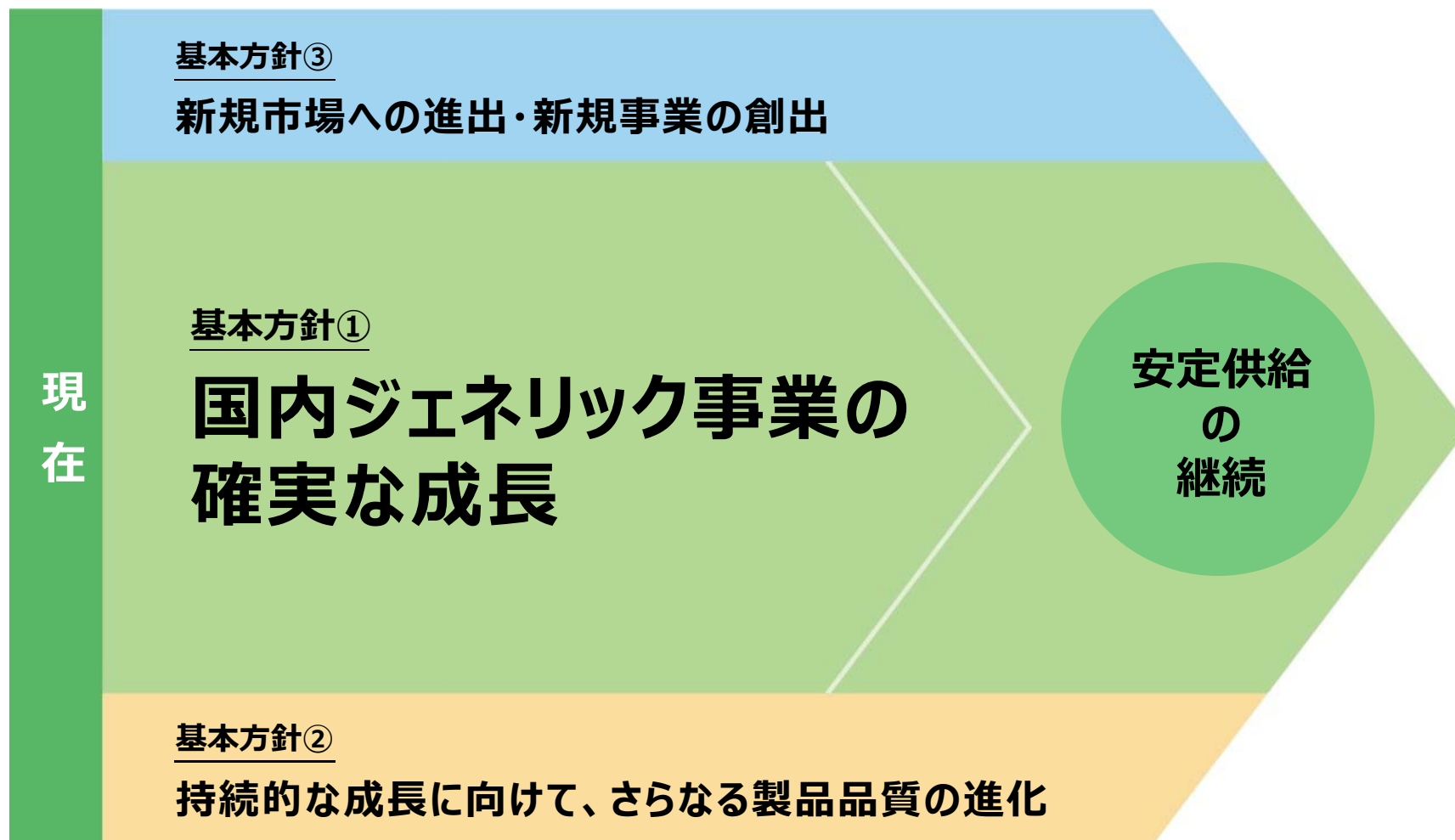
PROACTIVEとは、前向き、先見的を意味する用語です。医療体制の変化に順応していくためには、東和薬品という会社及び社員が将来に起こりうる変化やリスクを予測し、あらかじめ必要な対策を打つことが重要であると考えています。

外部環境と中期経営計画期間の位置づけ



当社の基本方針

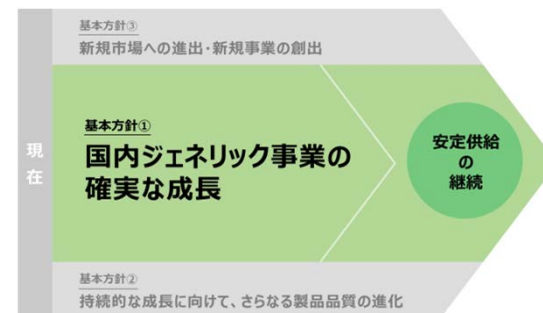
医薬品産業の中で確かなポジションを確立する。



基本方針① 国内ジェネリック事業の確実な成長

基本方針①

国内ジェネリック事業の確実な成長



課題

安定供給体制の維持・強化

原薬確保から医療機関に提供するまでの各所で適切な対策を講じることにより、良質な医薬品の安定供給を可能とし、社会的責務を果たす。

東和式販売体制の最適化

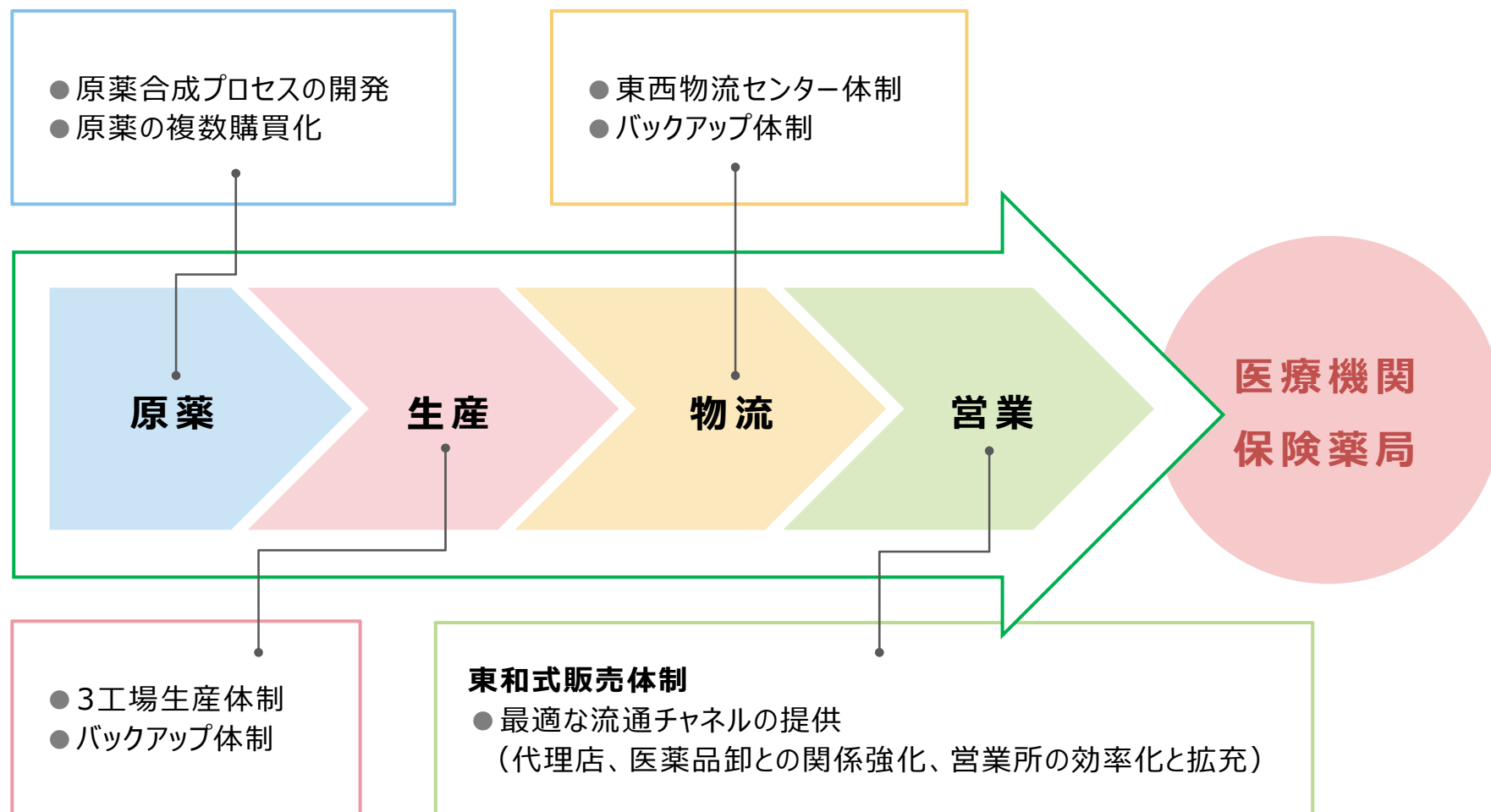
情報提供体制の拡充し、営業所及び代理店、医薬品卸との連携による最適な流通チャネルを確立する。

製品総合力No.1の製品づくり

総合ジェネリック医薬品メーカーとして、全ての医療機関に必要とされる医薬品を品揃えする。世の中で長く使用され続ける当社製品について、患者や医療機関等からの要望により、東和の製剤技術で適切な改良と改善を実施する。

安定供給体制の概要

東和薬品の安定供給体制：原薬確保から医療機関に提供するまでの体制



基本方針①

国内ジェネリック事業の確実な成長

安定供給体制の維持・強化

課題

安定供給体制の維持・強化



安定的な原薬調達	原薬合成プロセスの開発	東和薬品の原薬調達リスクを適切にマネジメントするために、大地化成及び信頼のおける協力会社にて、東和品質の原薬を製造できる合成プロセスを開発する。 (2020年度末までに累計40成分以上の合成プロセスを開発予定(2017年度末時点で23成分))
	原薬の複数購買化	当社が製造販売している製品に関わる原薬の複数購買率を50%以上を維持する。
	生産能力の確保	増産の必要性に応じて、速やかに設備や要員を導入することで必要な生産能力を確保し、安定供給責任を果たす。

基本方針①

国内ジェネリック事業の確実な成長

東和式販売体制の最適化

課題

東和式販売体制の最適化



→	最適な流通チャネルの確立	これまでの営業所及び代理店での直販体制に加え、医薬品卸との強固な連携により、最適な流通チャネルを確立する。
→	薬剤選択指標の提案	薬剤治療に対して有用な薬剤の選択指標を作成し、医療機関に対して適正な情報提供や提案ができる体制を整備する。
→	情報提供体制の拡充と将来の医療体制に向けた取り組み	適切な情報提供ができる体制を維持・強化する。将来における新たな医療体制での要請事項に応えるMR体制を整備する。

基本方針①

国内ジェネリック事業の確実な成長

製品総合力No.1の製品づくり

課題

製品総合力No.1の製品づくり

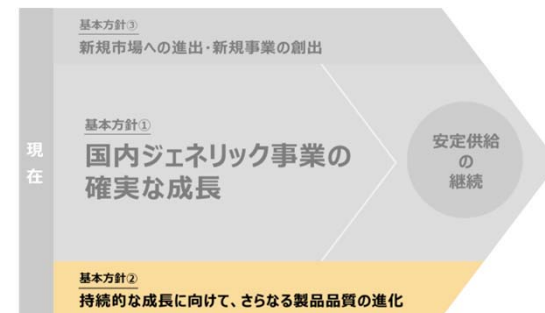


高い付加価値を提供できる 新製品の開発	<p>患者の服薬アドヒアランスの向上、医薬品の適正使用、医療関係者の安全性や利便性などの観点で、より高い付加価値を提供できる医薬品を開発し、薬剤治療に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none">● 飲みやすくする工夫 - OD錠化、味の改良、錠剤の小型化● 扱いやすくする工夫 -- 製品名印刷（視認性の向上） -- 包装パッケージの改良 -- 保管しやすさの追求（安定性の向上）
医療機関・患者からの 要望による 製品の改良・改善	<p>当社製品に対する医療機関・患者からの要望により、更なる製品の改良・改善を行う。</p> <p>医療機関や患者からの要望に応えられるように、継続して新たな基盤技術の獲得を続ける。</p>

基本方針② さらなる製品品質の進化

基本方針②

持続的な成長に向けて、さらなる製品品質の進化

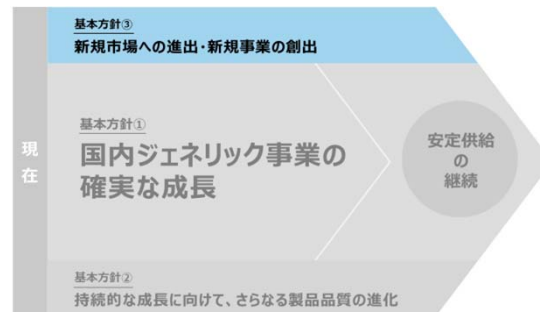


課題		
製剤	RACTAB技術の高性能化	より飲みやすく、扱いやすい製剤を生み出す基盤技術を蓄積する。
製剤	有効成分の安定化技術の確立	耐湿性、耐熱性、耐光性、耐酸化性等の安定性向上により、高い次元での製品品質を可能にする基盤技術を蓄積する。
原薬	新たな結晶化技術の確立	原薬の結晶形を自由にコントロールすることを可能にする基盤技術を蓄積する。
生産	連続生産プロセスの確立	分析技術の確立と応用により、効率的な製造プロセス（連続生産プロセス）の確立に向けた取り組みを行う。

基本方針③ 新規市場への進出・新規事業の創出

基本方針③

新規市場への進出・新規事業の創出



課題	
新規市場（海外）への進出	海外の潜在的ニーズにも応える 当社の製品を開発し、届ける。
<ul style="list-style-type: none"> 米国への海外展開 ASEANへの海外展開 新地域への海外展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国向けの良質な医薬品（付加価値製剤）の開発 ● 現地企業との連携や協力関係の探索 ● FDA査察に耐えうるデータインテグリティの整備 ● 新たな輸出先国の拡大 ● 新たな製品の輸出 ● 現地企業との提携や協力関係の探索
新規事業の創出	「人々の健康に貢献する」という理念に沿って、 幅広く検討を開始する。

主要項目の計数目標

売上高

1000億円達成

連結売上高（単年度）
1000億円を達成

営業利益（累計）

300億円以上

- 安定供給体制の維持・強化
- 新たな事業投資を含めた持続的成長のための投資
- 株主還元

自己資本比率

50%以上

財務安定性の向上

研究開発費（累計）

260億円以上

- 新製品の確実な上市に向けた開発計画
- 医療機関、患者からの要望による製品の改良・改善

設備投資（累計）

200億円以上

安定供給体制の維持・強化のための設備投資

配当政策

安定配当の実施

安定的な配当を行うことを基本とし、状況に応じて自己株式取得等による株主還元を図る

計数目標の前提について

「経済財政運営と改革の基本方針2017」に記載のジェネリック数量シェア80%目標が達成され、かつ、数量シェア80%が維持されること

当中期経営計画の作成段階において確定している薬価制度の内容に大幅な変更がないこと

2019年度における薬価改定は、消費税増税に伴う薬価改定以外の薬価改定が実施されないこと
また2020年度は通常薬価改定が実施されること

連結の範囲に変更がないこと

**将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。**

お問い合わせ先

東和薬品株式会社 広報・IR室

ir@towayakuhin.co.jp TEL.06-6900-9102 FAX.06-6908-6060